



## 対称行列のランクと固有値

$n$  次対称行列  $A$  の列の任意の線形結合

ref: 線形代数セミナー

p19

$$c_1 \mathbf{a}_1 + \cdots + c_n \mathbf{a}_n = \begin{pmatrix} \mathbf{a}_1 & \cdots & \mathbf{a}_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_1 \\ \vdots \\ c_n \end{pmatrix} = A \mathbf{c}$$

を考える

$A$  の  $n$  個の固有値のうち、0 でないものの個数を  $r$  とすれば、 $A$  のスペクトル分解の式において、 $\lambda_{r+1}, \dots, \lambda_n = 0$  とおいて、

$$\begin{aligned} A \mathbf{c} &= \lambda_1 \mathbf{u}_1 \mathbf{u}_1^\top \mathbf{c} + \cdots + \lambda_r \mathbf{u}_r \mathbf{u}_r^\top \mathbf{c} \\ &= \lambda_1 (\mathbf{u}_1^\top \mathbf{c}) \mathbf{u}_1 + \cdots + \lambda_r (\mathbf{u}_r^\top \mathbf{c}) \mathbf{u}_r \end{aligned}$$


すなわち、 $A$  の列の任意の線形結合は、互いに直交する  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_r$  の線形結合で書ける

互いに直交するベクトルは線型独立であることから、

- $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$  の張る部分空間（線形結合の集合）の次元は  $r$  である
- $n$  本の列のうち、 $r$  本しか線型独立ではない

ということがいえる

行列  $A$  の  $n$  本の列のうち、線型独立なものの個数を  $A$  の**ランク**あるいは**階数**というので、次のことがいえる

 **todo**  $A$  を対称行列とすると、 $\text{rank}(A)$  は、 $A$  の非零の固有値の個数に等しい

行列  $A$  のランク  $r$  は、非零の固有値の個数に等しい

$A$  は対称行列であるから、行についても同じことがいえる



## スペクトル分解による対称行列の対角化

スペクトル分解の式を用いることで、対称行列の対角化について簡潔に議論できるようになる

ref: 線形代数セミナー  
p19~20

対称行列  $A$  のスペクトル分解の式

$$A = \lambda_1 \mathbf{u}_1 \mathbf{u}_1^\top + \cdots + \lambda_n \mathbf{u}_n \mathbf{u}_n^\top$$

は、次のように書き換えられる

$$\begin{aligned} A &= \begin{pmatrix} \lambda_1 \mathbf{u}_1 & \cdots & \lambda_n \mathbf{u}_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1^\top \\ \vdots \\ \mathbf{u}_n^\top \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 & \cdots & \mathbf{u}_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1^\top \\ \vdots \\ \mathbf{u}_n^\top \end{pmatrix} \\ &= U \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix} U^\top \end{aligned}$$

ここで、

$$U = \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 & \cdots & \mathbf{u}_n \end{pmatrix}$$

は、列が正規直交系をなすことから直交行列である

そして、 $U$  が直交行列であれば、その転置  $U^\top$  も直交行列である

それゆえ、直交行列の行も正規直交系をなす

$A$  の式の両辺に左から  $U^\top$ 、右から  $U$  をかけると、

$$U^\top A U = U^\top U \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix} U^\top U$$

直交行列の定義  $U^\top U = E$  より、

$$U^\top A U = \begin{pmatrix} \lambda_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \lambda_n \end{pmatrix}$$

として、対称行列  $A$  は、直交行列  $U$  によって対角化できることがわかる